



野田の暦心二年宝篋印塔

大山町野田の大江清司家の墓地内にある宝篋印塔は、基礎部のみが残されたものですが、刻まれた銘文から暦心二年（一三三九）四月の制作であることが知られます。年号が刻まれた石塔としては、現在のところ県内で二番目に古いものです。

銘文中に五人の僧侶の名があり、その僧名から時宗僧か時宗信徒の可能性が高く、戦乱に巻き込まれて亡くなった四人の時宗衆徒のために、僧の蓮阿が勧進建立した供養塔と考えられます。

南北朝の戦乱期に時宗が地方で展開していく過程が読み取れ、その頃の当地域における地域史を知る手掛かりとして貴重です。



下甲北出口の赤碓塔

大山町下甲の小谷博貞さんの屋敷地の一面にある石塔は、宝篋印塔の塔身部分が方形ではなく、宝塔の円筒形をした折衷形式をとる「赤碓塔」と呼ばれるものです。琴浦町赤碓の花見瀾西塔（県指定保護文化財）が代表的で、赤碓谷地域を中心に、倉吉市付近に類例が知られる地方色の強い石塔様式です。下甲のものは分布圏域の最西端に位置し、赤碓塔形式のものとしては、最も新しい時期のものと考えられる資料として、当地域の中世社会の動向をひもとくうえで貴重です。

町指定文化財

4件 誕生!!

3月25日開催の教育委員会において、町文化財保護審議会答申に基づき、町指定保護有形文化財の新規指定が決定され、4件の町指定文化財が誕生しましたので紹介します。

大山道の立石道標

伯耆国八橋郡方面から羽田井村を経由して大山寺へ参詣する大山道も、厚心の信者や牛馬市へ向かう人々が行き交いました。この参道から山岳霊場の船上山へ参詣する道が分岐する地点（大山町羽田井字退休寺原）に建てられたのが立石道標です。元禄十四年（一七〇二）四月の建立で、紀年銘をもつ道標では現在県内最古です。

庶民の巡礼などが一般化し始めた元禄期頃の、人々の信仰のありようや、交通の状況を知るうえで貴重な資料です。



汗入郡札版木

江戸時代中期以降、一国や一郡規模で観音霊場などを設け、これを巡礼してご利益を得ることが盛んになりました。汗入郡札は伯耆国汗入郡内に観音霊場三十三カ所を選定して札所巡りとしたものです。その創設時に、創設者、ご詠歌選者、各札所とその本尊及びご詠歌を浮彫りした版木が作られており、その版木が長田自治会で保管されています。

この版木から、汗入郡札の創設が元禄十五年（一七〇二年）一月七日のことと知られます。各地で巡礼が盛んになり始めた頃の当地域の信仰の様子を物語る貴重な資料です。

